

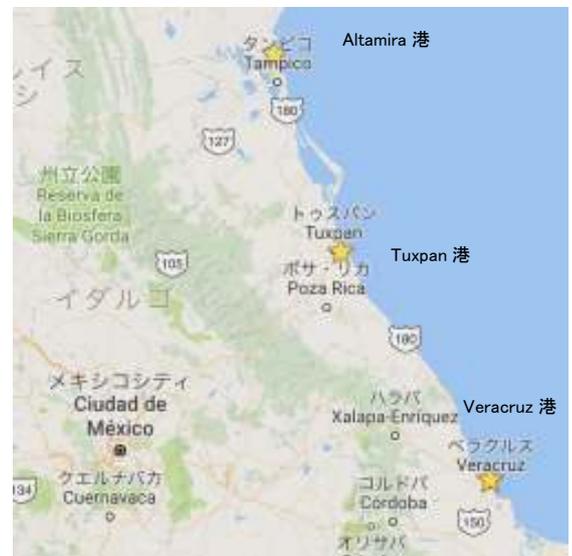
ここ数年世界各国の自動車メーカーがメキシコへ進出し、多くの現地生産工場拠点が増えてきているなか、2016年韓国自動車メーカーKia(起亜)社が現地生産を開始したことで、メキシコ東岸からの自動車輸送量が拡大し、中東航路の増加など物流への影響が見込まれます。本号では、メキシコ自動車貿易の最新動向に関する記事をお届けします。

1. メキシコの自動車産業および物流について

8月より北米自由貿易協定(NAFTA)の再交渉が始まり、貿易赤字削減を強く求める米国との交渉が厳しさを増す中にも関わらず、メキシコからの自動車輸出量が上半期で46%増加しており、今後も高い需要が見込まれています。メキシコ東海岸に位置するAltamira港の当局によると、この増加要因は2016年メキシコに進出した韓国のKia(起亜)社の影響が大きく、同社は2017年に150,000台、翌年には250,000台の自動車輸出台数を計画しております。またこれにより年間50船ほど入港船舶数が増加すると期待されており、大西洋を通じての中東航路が新設されたとの見方があります。

Kia(起亜)社は昨年、新たにメキシコ北部のNuevo Leon州Pasqueriaに約10億ドルを投資して完成車組立工場を開設しました。2016年は生産台数10万台のうち約3分の1が米国市場用としてPhiladelphia港向けに輸出されました。同工場の年間生産能力は30万台のため、更なる生産拡大が見込まれるものと考えます。

メキシコ東岸での自動車輸出台数は前年比で43%増加しており、その主要港はAltamira港(+42%)とVeracruz港(+33%)となっています。また、昨年開港したTuxpan港は2016年上期の輸出台数が0台でしたが、今期は8,236台と報告されています。



(地図: Google map)

2. 今後の見通し

調査会社であるIHS Automotive社によると、メキシコの自動車生産台数は2016年に前年比で1.2%増加しましたが、2017年には更に16.5%の増加が予測されています。これはKia(起亜)社の工場が今後軌道に乗ることが見込まれており、更には2018年から2019年にかけてBMW社やJVでのルノー・日産ダイムラー社の自動車生産開始が見込まれていることから、2024年にはメキシコにおける自動車生産台数は496万台までに上ると予測されています。

メキシコで生産される乗用車の約80%は輸出されており、今後NAFTA交渉の影響次第ではありますが、更なる自動車輸出の拡大が見込まれると考えます。



本Topicsに関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本Topics情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html